

平成 13 年度 (2001 年度) 大学院国際言語文化研究科博士課程 (前期課程)

国際多元文化専攻 入学試験問題

試験科目：論述 (問題用紙は 2 ページ、設問は 12 問あります)

第 1 ページ

以下の設問 1 ～ 12 から 2 問選んで解答しなさい。そのうち少なくとも 1 問は、第 1 希望の講座の問題から選ぶこと。

多元文化論講座

1. 日本人は国際社会でイエスとノーがはっきり言えない、と評されることがあるが、この評価について論述しなさい。
2. 「西洋の教育制度が導入される前は、エチオピア支配層であるアムハラ族の子供達は 4 歳になる頃からキリスト教の学校に通った。(この国にキリスト教が入ったのは紀元 4 世紀である。) 子供達はそこで教会の教えをうけ、聖歌を学んだ。そんななかに成績が振るわず、落ちこぼれる者もいた。落第に落第を重ね、結局そういう子供達は学校をドロップアウトせざるを得なかった。学校を去った後、彼らはどうなったか。彼らは、まさに社会のアウトサイダーとしての音楽家、アズマリと呼ばれる人々になった。あれほど望んだ聖職者への道が絶たれると、その挫折感から教会というものは彼らにとって厭うべきものとなり、そのために練磨した声と音楽的素養は、今度は逆に教会に対する深い敵愾心を表現する道具となったのである。そればかりではない、彼らの批判は社会のあらゆることに向けられていた。」(塚田健一『アフリカの音の世界』)
上記の文を読んで、社会とアウトサイダーとの関係について述べなさい。

先端文化論講座

3. 「現実」という概念は、さまざまな対^{つい}概念のなかで捉えられてきた。「理念と現実」、「幻想と現実」、「真なる現実と目の前の現実」などがそれである。
「仮想現実」という言葉が一般化したように、現代では、「現実」という概念が揺らいでいると思われる。それでは、現代において、現実、あるいはリアルなものとは、どのような観点から、どのような性質を持つものと理解されるか。具体的な例を挙げて分析し、あなたの考えを述べなさい。
4. ある日本在住の外国人が次のような発言をしている。
「現代日本には、日本文化をおとしめるものがあふれている。これはかなり重大な事である。実際、文化のレベルで、日本は外国人にどんなイメージを与えているだろうか。」
この発言をどう考えるか。また、日本の文化の現状について、あなたの考えを述べなさい。

現代アメリカ表現科学講座

5. 南北アメリカにおける祝祭 (例えば カルナヴァル) の社会的、文化的意義について論述しなさい。

6. アメリカ社会におけるフロンティアとはなにか、歴史的事実をふまえて論述しなさい。

平成 13 年度（2001 年度）大学院国際言語文化研究科博士課程（前期課程）

国際多元文化専攻 入学試験問題

試験科目：論述

第 2 ページ

現代東アジア表現科学講座

7. 外国文化の受容における誤解について、東アジア（ロシア、中国、韓国・朝鮮）の場合において具体例をあげて論述しなさい。
8. 母語と国語との相異を中国、韓国・朝鮮、ロシアの内から一つの地域を選び具体的に論述しなさい。

現代ヨーロッパ表現科学講座

9. 「日本とヨーロッパ」というテーマ博で、企画のひとつがあなたに任せられるとしたら、あなたはどのような意図で、どんな企画をし、なにを展示しますか。
10. 西欧近代における「個人」と「社会」という対立概念は、現代社会を考えるうえで有効であるか。西欧各国の現代社会から例を挙げて、論述しなさい。

共通選択

11. 言語類型論とはなにか、具体例をあげて説明しなさい。
12. 外国語の習得における母語の影響について、実例をまじえて論述しなさい。